

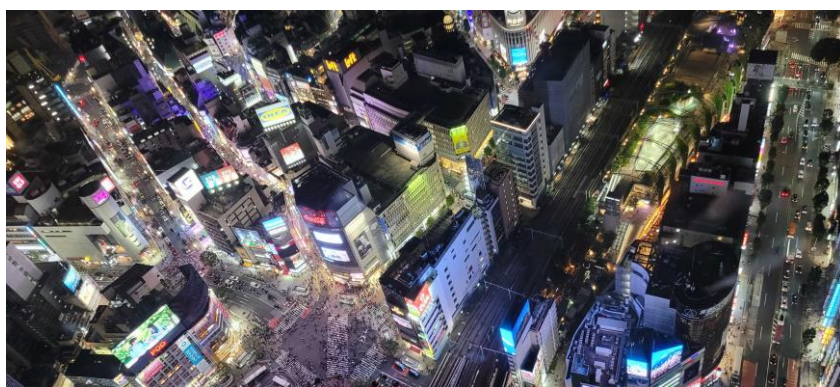
留学生の声エッセイ

現代政策学部 イム ギョンホ(林敬鎬)

〔日本交換学生生活〕

2025年4月、日本での交換留学生活が始まり、いつの間にか6ヶ月が過ぎました。この短くない期間の間、私は単なる留学生活を超えて、日本という国をより深く理解し、自分自身についても多くのことを学ぶ大切な時間を過ごしています。アニメーションが好きで、各世界の独特な建築様式に関心が多かった私は、日本という国が持つ独特で魅力的な建築文化を直接目で見て体験したいという考えで交換留学を決心しました。

初めて日本に到着した時のときめきは今でも生々しいです。東京の繁華街から郊外の静かな街まで、日本は都市のあちこちに自分だけの建築的色彩を盛り込んでいました。登下校の際に偶然出会う古い木造家屋や、現代的ながらも伝統を溶け込ませた建物を見るたびに、まるで生きている博物館の中を歩いているような気がしました。建築を単なる構造物ではなく、文化と歴史、そして人々の暮らしが溶け込んでいる一つの芸術として感じるようになったきっかけでした。



〔渋谷スカイ展望台〕



[浅草寺]

また様々な活動を通じて日本人の友達を作り、彼らとの交流を通じて日本社会の文化的特性と考え方を少しずつ理解して行っています。はじめは言語的な障壁もあったし、特に授業で漢字をたくさん分からなくて慌てたりもしました。日本の授業方式も韓国とは多少違って適応するのに時間がかかりましたが、その過程を通じてより主導的に勉強し、新しい視点で思考する方法を学びました。今は足りない部分を自分で補うために努力していますし、日本語の実力も目立って向上しました。



[築地市場のスズメ]



[他の留学生たちと居酒屋]

近づいてくる冬、日本の美しい冬の風景が見られる日を楽しみにしています。雪の降った静かな街並み、伝統家屋の上に白装束が積もった雪、そして照明がきらめく都市の夜景は、まだ私が経験したことのないもう一つの日本の姿でしょう。このような季節の変化さえも建築物と調和して新しい雰囲気を作り出すという事実に期待が大きいです。

今回の交換留学経験を通じて私の進路についてもまた考えるようになりました。これからは建築と文化、そしてアニメーションのような視覚芸術が融合したコンテンツを作る仕事をしてみたいという目標ができました。日本で見て感じたことをもとに、人々が生きていく空間をもっと豊かで意味のあるものに寄与したいです。単純に「見る建築」ではなく、「感じる空間」を作ることができる人になりたいです。

日本での留学生活は単純に外国で勉強する経験を超えて、自分自身と自分の夢を具体化させてくれる大事な旅程でした。これから残った留学期間中にももっと多くのことを見て聞いて感じて、私が本当に望む方向に進むことができるように最善を尽くします。